

審査員特別賞

「 本気 」

経済学科 4年 カスタード（ペンネーム）

私の大学生活を一言で表すなら「中途半端」である。大学での四年間、何かに本気で打ち込むということをしなかった人間特有の虚無感がそれを自覚させてくる。私の日常はだらだらと授業を受け週四バイトをしながら、ゲームや動画を見るといった面白みに欠けるものだ。大学での友人も二人いるが、年に数回遊びに行くぐらいで仲良しとは微妙に言いづらい。

このように積極的に遊ぶ訳でもなく、勉強や趣味に没頭する訳でもない私だが決して四年間毎日やる気がなかったわけではない。入学したての春、とある部に入り大学生活を充実させようと意気込んでいた。部の説明会を受け聞き終わった後、活動する時連絡するからと言われた私はそのまま連絡を待つ。そして一年生の私は部に入らず終了した。何を言っているんだと思われるだろうが事実だ。具体的には連絡は来ず、自分から連絡もせず馬鹿正直に待ち続けた私は一年を棒にふる。一年の中盤「待ってても無駄」ということに気づいたが、既に部で仲間同士の輪があり、そこに入るのには難しいと決めつけ逃げたのだ。

さて一年何もしてないことに危機感を持った私は、私は改めて部を探し無事入部した。その部は三人で運営されていた体育会系である。入部理由は少人数なら輪に入りやすいという浅いものだ。それが良くなかった。まず活動にやる気がなく練習は週一。しかもそれすら無い時の方が多い。では部員の仲はというと互いに無関心、輪自体がなかった。その空気と私の持ち前の逃げ癖により真剣に活動に打ち込まなかった。後は覇気のない日常を送る毎日。やったことといえば何かの資格本を買い放置したぐらいだ。そんな大学時代何もしなかった人間を社会はあまり欲しがらず希望ではない職につくことになった。

何かに本気で取り組まない人間は後悔することになる。これを見て一人でも生活を見直してくる人がいるなら少しは私の大学生活も意味があるものだったのかもしれない。